

(2) 第7ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【中川北小学校と六木保育園の取り組み】

○ 学校公開

1年生の算数、2年生の体育、4年生の読み聞かせの授業を体験した。保育者は、1年生アンケートからの課題に着目しながら見学し、保育園から小学校への滑らかな移行を踏まえた保育内容や援助の仕方へつなげた。



1年生の教室では、「ボード（黒板）が大きい」「ひらがなやカタカナがいっぱいある」と気づいたことを伝えてくる。「鉛筆で字を書いているね」と言うと、「ほんとうだ」と言って、机に向かう姿に注目する。

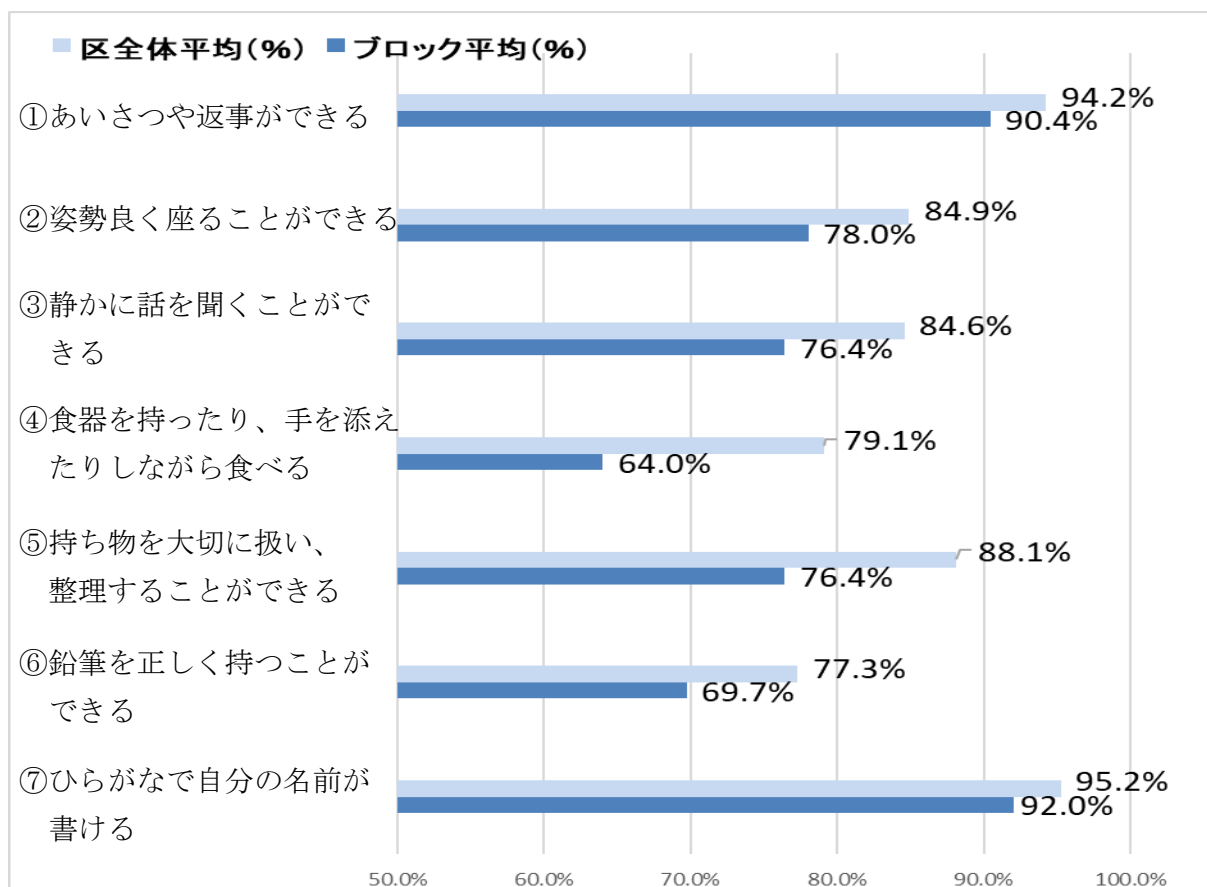
2年生の体育で平均台や肋木を使う授業を見学した。初めて見る器具だったので、使い方を真剣な表情で見ている。園に戻ると「登るもの（肋木）はちょっと怖そうだった」「一本橋（平均台）はやってみたい」「すごく高いところに電気があった」「バスケのゴールもあったよ」と、感じたことを教えてくれた。



図書ボランティアの方による絵本の読み聞かせに、4年生と一緒に参加。少し長い話だったが、繰り返しのあるストーリーが馴染みやすく、よく見ていた。読み聞かせの雰囲気心地よく感じていた。

(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第7ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
今回、すべての項目で区の平均値より低い結果となっていたが、その中でも特に、食具の持ち方、食事のマナー、鉛筆を正しく持つことについては、区の平均値と大きな乖離があった。また、姿勢良く座り、静かに話しを聞くことについても、課題が見られた。
課題に関する子ども達の取り組み方針
ア 丁寧な見取りと個別の対応を実践していく。(箸の持ち方の見直し、意識付けを行う。鉛筆の持ち方は個々に正しい持ち方を知らせ習慣となるようにしていく。)
イ 粗大運動と微細運動などを習慣的に行い、運動能力の向上と、体幹を鍛えていく。
ウ 遊びの中で手指を使う遊びを多く取り入れ、無理なく箸や鉛筆の持ち方に移行していく。
エ 生活の中で、人の話を聞く時に必要な態度や姿勢を知らせ、身に付くようにしていく。
オ 自分たちで考えたり質問に応えたりする経験から、話を聞いたり、自分が発言する時の態度を身に付けていく。

8 第8ブロック

(1) 第8ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
栗島	・栗島		
加平	・あおい	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぽぽ保育所六町園 ・たんぽぽ保育所第二六町園 ・六町駅前 ・野のはな 	
東栗原		<ul style="list-style-type: none"> ・東栗原 ・明日葉保育園保塚園 ・クリアナーサリー 足立さくら園 	
平野	・足立つくし	・平野	
青井		<ul style="list-style-type: none"> ・明日葉保育園青井園 ・AIAI NURSERY 綾瀬六丁目 ・青井 	

(2) 第8ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【平野小学校と足立つくし幼稚園の取り組み】

○ 音楽会リハーサル見学

2、4、6年の音楽会のリハーサルを見学した。演奏する様子を見て大変感心したようで、園に戻るとおもちゃを楽器のように使って遊んでいた。見学中は小学校の教員の指導の仕方に興味を示し、幼稚園の教員の指導との相違点を見付けては、言葉で伝え合っていた。



【平野小学校と平野保育園の取り組み】

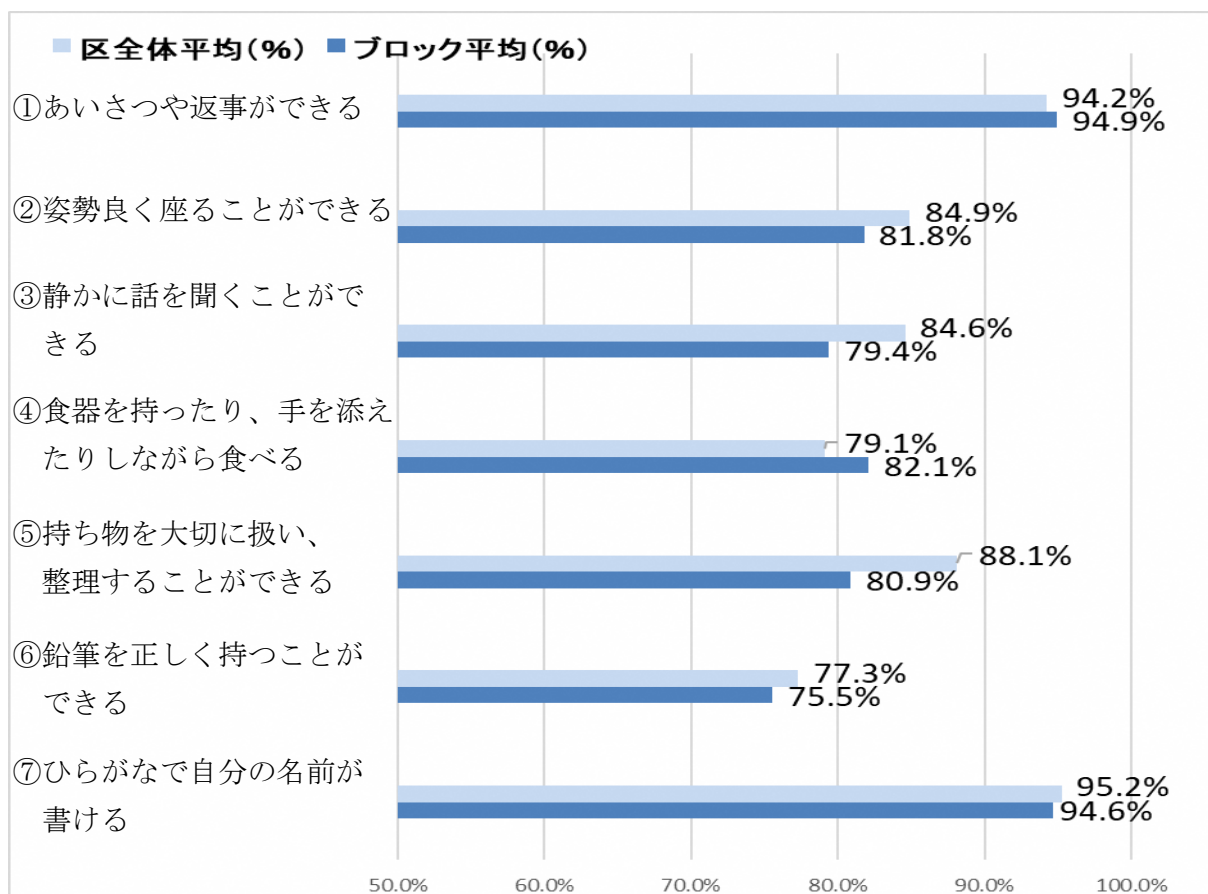
○ 昔遊び

昔遊びの交流のことを伝えると、子どもたちは小学校に行く日を楽しみにしていた。1年生が計画し、体育館に「お手玉」や「こままわし」、「おりがみ」「羽根つき」など様々な昔遊びが用意され、1年生と一緒に楽しんだ。初めは緊張していたが、1年生が一人一人に声をかけてくれたことで、次第に緊張がほぐれ遊びを楽しめるようになった。

「こままわし」では、1年生から「まわすの上手だね」「すごいね」と褒められたり、遊び方を優しく教えてもらったりしたことで、就学に対して安心感をもつことができたようだ。

保育園に戻ると、「学校って、楽しそうだね」「また、学校にいつかみたい」と話す子どもの姿が見られ、就学への期待がさらに高まったようだ。

(3) 令和5年度1年生アンケート結果
第8ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ア クラスの3～4割の児童が鉛筆を自己流で持ち、正しく持つことができない。
- イ 箸の持ち方、食器に手を添える等、正しい食具の扱いについて自分で意識できない姿が見られる。
- ウ 困った時にどうしたらよいかの手段（助けを求める、状況を理解し説明する、解決しようと考え行動するなど）が身に付いていない姿が見られる。
- エ 正しい姿勢で座れない、姿勢の保持ができない児童がいる。
- オ 学校の生活に慣れていないことが要因で、児童の困り感があった（給食時のお盆での配膳、トイレでの排便の始末など）。
- カ 保育園で少人数だった児童にとって、集団で活動する学校にはギャップがあった。

課題に関する子ども達の取り組み方針

ア 園児の体験

- (ア) 小学校の給食を体験する。
- (イ) 園児が小学校を訪問し、小学校の生活や活動を体験する。一年生と交流する。
- (ウ) 園児を運動会などの行事に誘い、小学校を知る機会にする。小学校の一年間の行事予定を園児に渡して紹介する。
- (エ) 近隣の園同士で、園児の交流を図る。名前を知る。一緒に遊んで互いを身近に感じる。

イ 職員の実践

- (ア) 園児・児童が自ら活動や学習に向かう意欲をもつために、保育者や教職員が環境を整え、園児が興味をもてるように活動の提示の仕方を工夫していく。
- (イ) 園の職員が小学校の実態や課題を見て、保育に活かしていく。
- (ウ) 小学校の教職員が保育観察をして園での指導を知る。小学校での教育に活かしていく。
- (エ) 園と小学校の職員同士の交流を図る。園と小学校の実態や課題を共有し、それぞれの保育や教育に反映させていく。
- (オ) 園の保育観察を通して学び合い、園同士の職員の交流を図る。

ウ 保護者支援

就学前施設の保護者会に小学校の教職員が出向き、小学校の生活や学習について説明する。

9 第9ブロック

(1) 第9ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
花畑		・六町あづま	
花畑第一		・東花畑	
花畑西	・杉の子		
桜花	・花畑八千代	・花畑桑袋 ・レイモンド花畑	
花保	・石鍋	・南保木間 ・愛隣 ・六町 ・東保木間	

(2) 第9ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【花畑第一小学校と東花畑保育園の取り組み】

○ 学校探検・体験給食

学校探検では図書室、1年生の授業を見学する。しっかり座って手をあげる1年生の姿や話を聞く態度を見て、小学校に一段と憧れや期待をもち、保育園でも椅子に座る時の姿勢を意識する子が少しずつ増えてきた。

体験給食では、5年生が給食についてのクイズや園児の好きな絵本の読み聞かせ、水道の使い方や手の洗い方を教えてくれた。困った時は優しいお兄さん、お姉さんが助けてくれることを知り、不安に思っていた子どもも安心感をもったようだ。事前に献立を知らせたことで、給食が苦手な子どもも当日を楽しみに待つことができた。

保育園に戻り感想を聞くと、「本がいっぱいあった」「1年生が勉強していた」「給食の牛乳はコップじゃなくて牛乳パックだった」など、次々と声上がる。学校探検の経験から、小学校への期待の大きさが伝わってきた。



校長先生による大型紙芝居の読み語り。
よく見ていました。



1年生の教室を見学

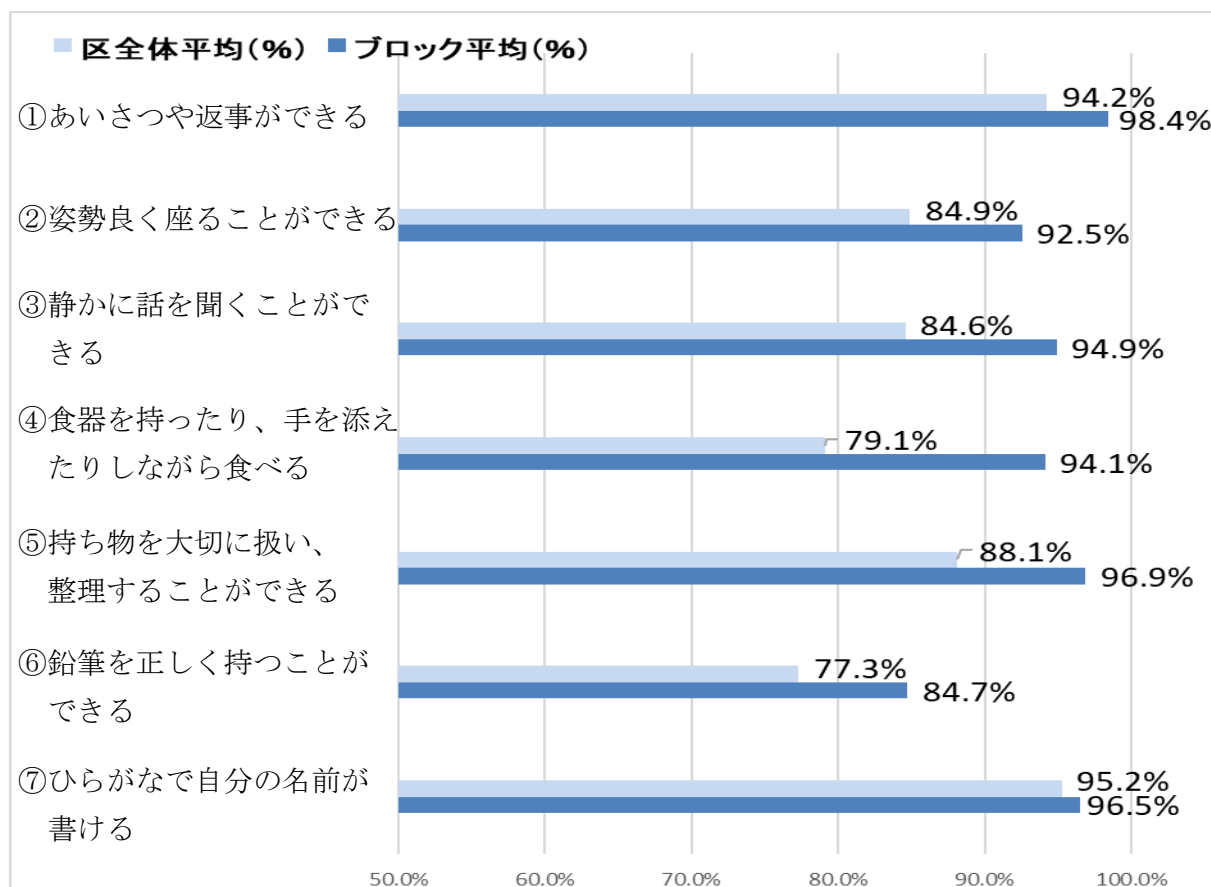


5年生が水道の使い方や手の洗い方を
丁寧に教えています。



ランチルームで給食。配膳は5年生
がしてくれました。

(3) 令和5年度1年生アンケート結果
第9ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
ア 自分からの発信はあるが、人の話を聞いたり相手からの質問に答えたりする力が弱い。
イ マスクを着用した生活が長く続いたことへの影響からか、正しく発音することができない子どもが多い。
ウ 外国にルーツのある子どもが増え、コミュニケーションが難しいこともある。
エ 気持ちの折り合いをつけることが難しい子どもが多い。経験の積み重ねが大切であると感じる。
課題に関する子ども達の取り組み方針
ア 幼稚園・保育園などで行っている話を聞くルール「良い姿勢で目を見て聞く」を継続して伝え、小学校で「相づちをうって聞く」ことへ繋げていく。
イ 自信をもって安心して話すことができる環境づくりを行っていく。
ウ 「〇〇です。」と語尾までしっかりと自分の話を伝える練習をする。
エ 小学校ではペア学習を取り入れながら、友達の話に耳を傾ける活動を増やしている。就学前施設ではみんなで話し合いながら作り上げていく活動により、友達とのやり取りを強化している。

第10ブロック

10 第10ブロック

(1) 第10ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
中島根		・中島根	
渚江	・竹塚	・竹の塚北	
渚江第一	・小倉	・保木間 ・北保木間 ・まなびの森保育園竹ノ塚	
西保木間		・西保木間 ・水神橋	
保木間		・竹の塚	
竹の塚	・ふちえ	・渚江	・保育園ミルキー ウェイ竹の塚

(2) 第10ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【**渚江第一小学校と小倉幼稚園、まなびの森保育園竹ノ塚、保木間保育園、北保木間保育園の取り組み**】

○ 言語活動

1年生が作った乗り物図鑑を各園に届けてくれた。園児は友達と一緒に見たり、一人で読んだりする。読み終わると「ありがとうって言いたい」「小学生に聞いてみたいことがある」と話し、お礼の手紙を書くことになった。わからない文字があると自分から「どう書くの?」と保育者に聞いたり、絵を描いたりしながら、小学生に伝えたい思いを表現していた。1年生の活動が、園児の言語活動を豊かにし学校への期待につながった。



【**渚江第一小学校と北保木間保育園の取り組み**】

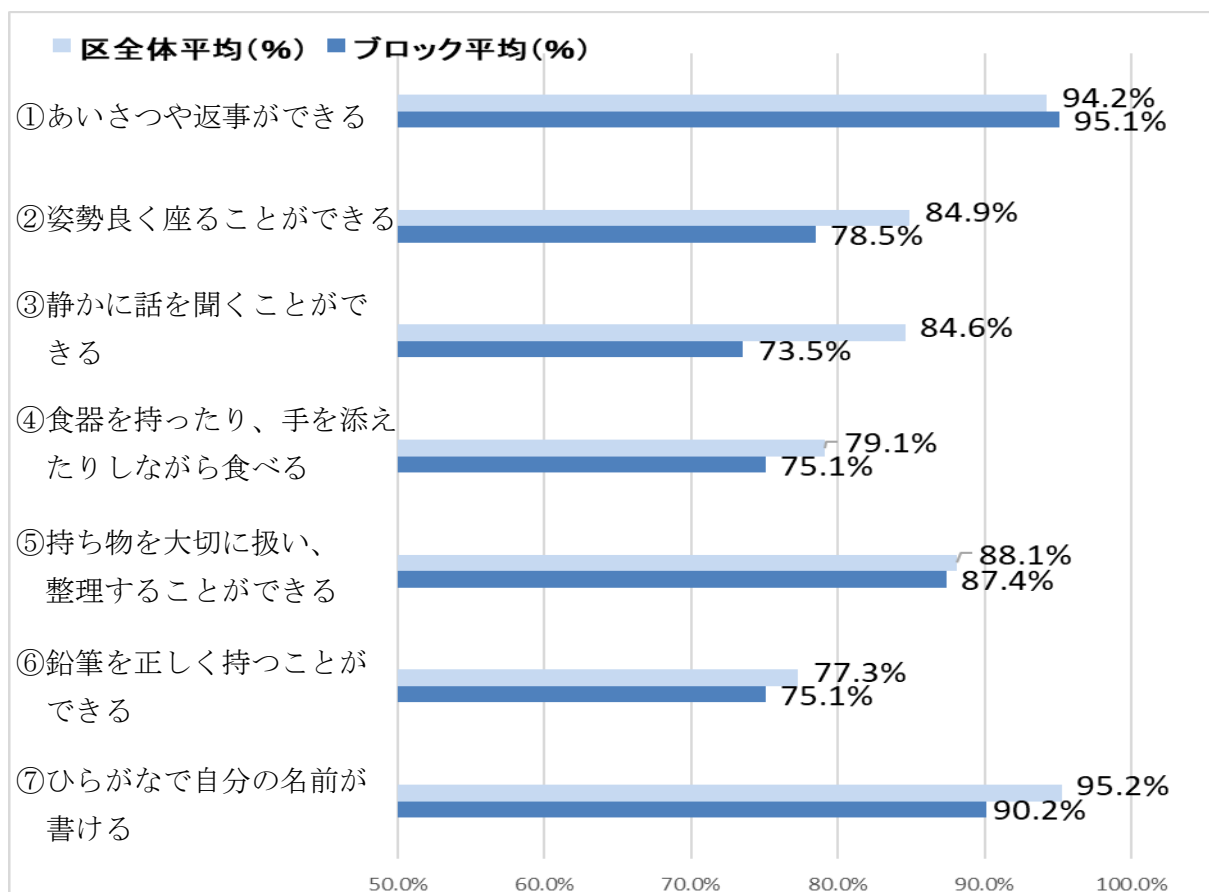
○ 学校探検

8月に学校探検を行った。感染症対策に考慮し子ども同士の交流は行わなかったが、園児は副校長先生の案内で、校舎内を興味をもって見学していた。大きな階段や長い廊下に驚き、教室に貼られていた食育ポスターを見て、「保育園と同じだね」と気付いたことを伝える姿があった。広い校庭では、全速力で走ったり、セミの抜け殻探しを楽しんだりした。小学校に親しみをもち、就学への期待が高まった。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第10ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
<p>ア 姿勢良く座る、静かに話を聞くということが苦手な姿がある。 ⇒体幹が弱いのは、生活の中で体を動かす機会が少ないことが原因の一つと考えられる。新年度は落ち着かず、話を聞く雰囲気作りが難しい。興味の有無に個人差が大きい。</p> <p>イ 「食器に手を添える」「鉛筆を正しく持つ」ということが身に付いていない姿がある。 ⇒小さい時に無理に鉛筆を持つ必要はない。正しく持つということの意味を考えていく。外国にルーツがある子への指導が難しい。</p>
課題に関する子ども達の取り組み方針
<p>ア 遊びの中で体幹を鍛えていく。</p> <p>イ 話し始めるときに「話をします」と言ってから話し始めることで「今は聞くとき」ということを意識できるようにする。話す内容は「一指示一動作」を意識する。</p> <p>ウ 食事のマナーについては、就学前施設にて一人一人丁寧に見取っていく。 指先を使う遊びを取り入れていき、箸や鉛筆の正しい持ち方につなげていく。</p> <p>エ 就学前施設や学校だけでなく、家庭への発信も必要と考えられる。取り組みを伝えることで興味をもってもらい、一緒に取り組んでいくようにする。</p>

11 第11ブロック

(1) 第11ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
西新井 第二		<ul style="list-style-type: none"> ・西新井 ・iー保育園 ・清水 ・アスク西新井 	
西伊興	・佐藤	・ういず西新井	
栗原北	・はなぞの	<ul style="list-style-type: none"> ・くりはら愛育 ・伊興大境 	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぼぼ保育所 ・竹の塚園
伊興	・福寿院	・伊興	
東伊興	・本行寺第二伊興	<ul style="list-style-type: none"> ・伊興すみれ ・こころたけのつか 	

(2) 第11ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【伊興小学校と福寿院幼稚園の取り組み】

○ 展覧会見学・学校探検

展覧会では、小学生が丁寧に作った作品や、見る側がわくわくするような工夫に、園児は「すごい、どうやって作ったのかな」「自分も作ってみたい」と目を輝かせていた。

学校探検では、1年生の授業の様子をよく見て、気付いたことを友達と伝えあっていた。校庭では開放的な雰囲気を楽しみ、小学校への憧れ、就学への期待につながった。



【伊興小学校と伊興保育園の取り組み】

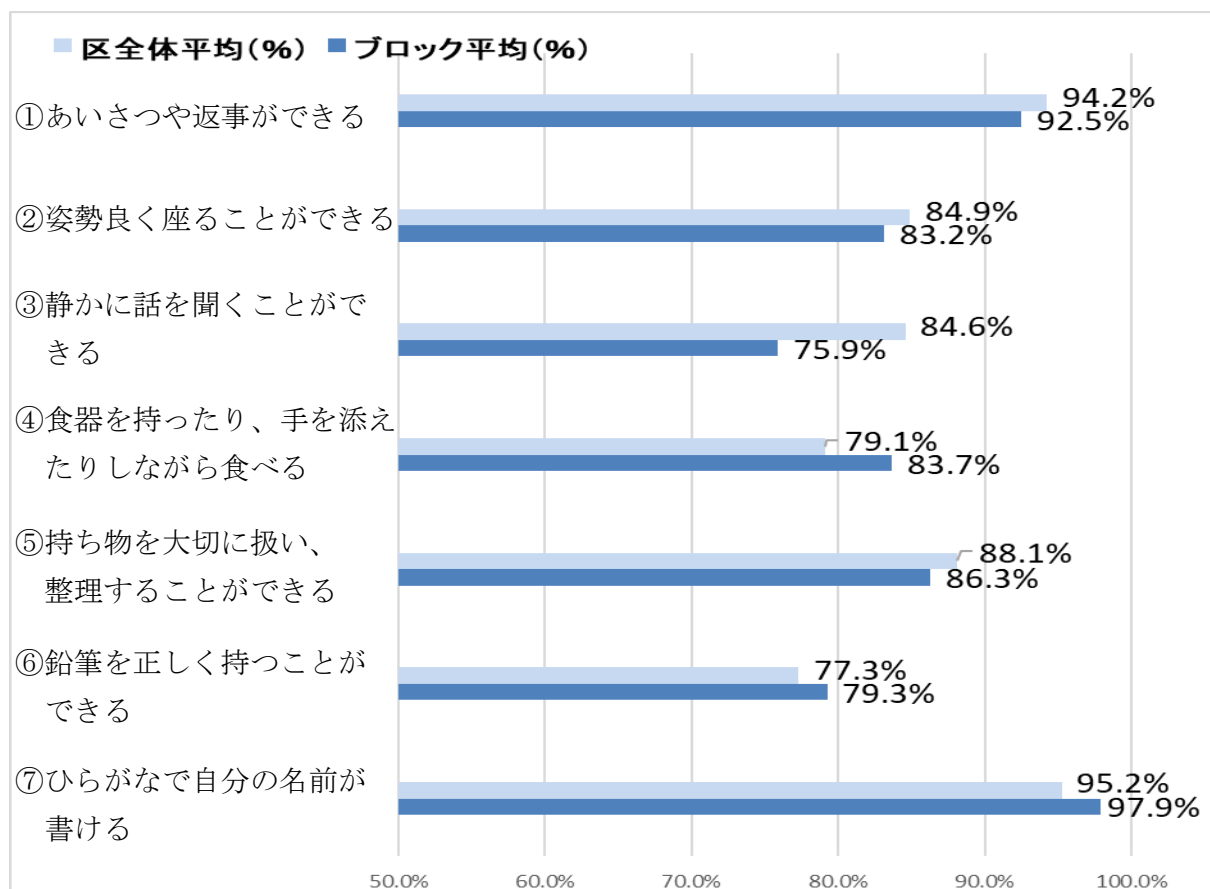
○ 授業体験

1年生は、生活科の授業の中で昔遊びやランドセル体験、学校クイズなどのコーナーを設定し、5歳児1名と1年生2名が1組となり活動した。1年生は、5歳児が楽しく参加できるよう分かりやすく伝える工夫をしていた。その中には、相手を思いやる気持ちが育まれており、互いに貴重な体験となった。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第11ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

ア 食事作法や鉛筆の持ち方、自分の名前を書くことについて、ブロックとしての大きな成果を上げているため、今後も継続していく。課題の一つとして、「静かに話を聞く」点が挙げられる。

イ 子どもが主体的に学習に取り組むことは現代において必須なものとなっているが、教師の話や友達の意見を聞かなければいけない場面も必ずある。学校だけでなく社会生活の中でも話を聞かなければならない必要性は絶対にあるため、話を聞く姿勢や態度を育成していきたい。

課題に関する子ども達の取り組み方針

保育園や幼稚園においても話を聞かなければならない場面は必ずあるが、小学校ではその聞く時間が比較すると長い。小学校の授業では、教師が話す時間を減らす改善を図っているところであるが、話し合いの中でも友達の意見をしっかりと聞かなければならない。まずは「話の聞き方」「なぜ話を聞かなければいけないか」という基本を徹底したい。また、話を聞く能力には個人差があるため、子どもが集中して聞けるように指導者が常に工夫しながら指導し、効果的な方法を共有していく。

12 第12ブロック

(1) 第12ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
鹿浜第一		<ul style="list-style-type: none"> ・ 足立このみ ・ SAKURA 保育園谷在家 ・ 谷在家 	
北鹿浜		<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿浜 ・ 太陽 	
鹿浜西	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿浜愛育 		
鹿浜 五色桜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江北白百合 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三上沼田 	
皿沼		<ul style="list-style-type: none"> ・ 加賀 	
新田 (新田学園)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新田わかば ・ 新田 ・ ココロット ・ 保育園ヴィラ・ココロット ・ 新田さくら ・ 新田おひさま 	

(2) 第12ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【鹿浜五色桜小学校と第三上沼田保育園の取り組み】

○ 1年生との交流（学習発表会参観・学校探検）

園児は昇降口で上履きに履き替え、校長先生のお話を聞いた。校長先生から、靴のかかをとを揃えて下駄箱に入れていたことを褒められ、照れている表情も見られたが、靴を揃えることの大切さの話は真剣な表情で聞いていた。

1年生は、学校（教室、校長室、図書室、保健室など）のことを自分たちで調べ、「どんなふうに説明すれば園児にはわかるかな」と、園児を思い浮かべながら準備を進め、当日を迎えた。

説明後、1年生と園児は手をつなぎ、学校内を一緒に探検した。

園児は「プールが大きかった」「図書室に本がいっぱいあった」「理科室もあった」など感想を言い、就学への期待がさらに高まった。



1年生の発表を一番前で聞く園児たち

☆「図書室は本を読んだり調べたりできます。畳の部屋もあります。たくさん本を読んでください。」
 ☆「保健室はケガをした時や具合の悪い時に行ってください。保健室にはピンクのソファもあります。」



【新田小学校と新田保育園、新田さくら保育園、保育園ヴィラ・ココロット、新田おひさま保育園、ココロット保育園、新田わかば保育園の取り組み】

○ 学校見学

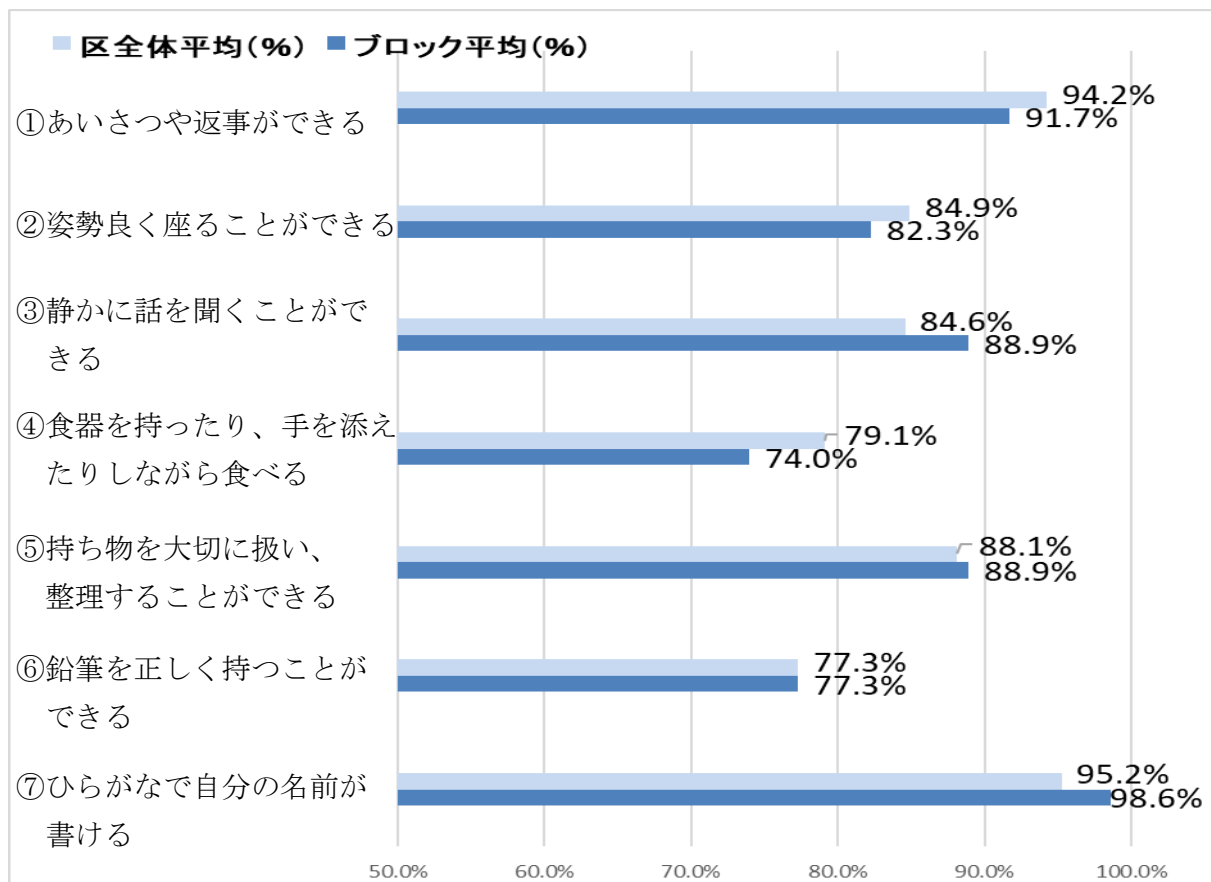
6園で新田小学校を見学した。各園に分かれて1年生の授業や体育館で大縄跳びをする様子、図書室を見学した。園児にとっては授業の雰囲気を感じてみる機会となった。

帰り道では「楽しかった」「もう学校に行きたくなった」と期待を膨らませる声が聞かれた。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第12ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
ア あいさつについて元気よくできている。「あいさつすると気持ちがいいね」等、やることの意味を考えさせていく。
イ 姿勢や話を聞くこと、食事のマナーについては段階的に取り組んでいる。就学に向けてどこまで達成させるかを、幼保小が連携して共通理解が図れるとよい。
ウ 「自分の名前が書ける」の数値が高く、絵本や紙芝居への関心、数字や文字を書いてみたいという気持ちにつながっている。しかし、気持ちが先行して「鉛筆を正しく持つ」ことがおろそかになってしまうことが、課題と考える。
エ 怪我が多くなっている。コロナ禍の影響で体の動かし方・運動あそび体験が不足しているように感じる。体幹が弱いことがバランスの悪さ、姿勢にも影響している。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ア 「やってみたい」「できる」「おもしろい」の気持ちを大切に学習を展開していく。
- イ 運動発達の36の動きを遊びの中にしっかりと取り入れていくことで、姿勢が保てる体づくりを促進していく。姿勢が良くなる取り組みをすることが、あいさつ、話す・聞く、食事のマナー等の改善にも大きく関わっていると考ええる。
- ウ できている子をどんどん褒める。
- エ 「お話をします」→手を膝の上に等、幼保小で共通した取り組みを実践していく。
- オ 成長発達を、家庭と共有していく。
- カ 計画的に交流活動を実施する。園児が、小学校の授業や給食などを体験することによって、小学校の様子を肌で感じ入学への期待や意欲を高めていく。

第13ブロック

13 第13ブロック

(1) 第13ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
舎人	・足立みどり	・聖 ・アスクとねり ・アスク舎人駅前	・てのひら こども園
舎人第一	・とねり伊藤	・いりや第二	
足立入谷		・いりや第一	
古千谷	・足立つばめ ・舎人		

(2) 第13ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【舎人小学校と聖保育園、アスクとねり保育園、アスク舎人駅前保育園、
てのひらこども園の取り組み】

○ 野菜栽培収穫体験、体験給食、入学体験

園児は栽培収穫体験を、7月から12月に感染状況を考慮しながら複数回行った。9月から11月の体験給食では、小学校での活動に対する関心や期待を高めることができた。その後の12、1、2月の入学体験では、園児は「畑に来た学校だね」「給食食べたね」と話す姿もあり、緊張することなく参加していた。学校側は、就学前の園児の様子を観察することができた。



【舎人第一小学校ととねり伊藤幼稚園、いりや第二保育園の取り組み】

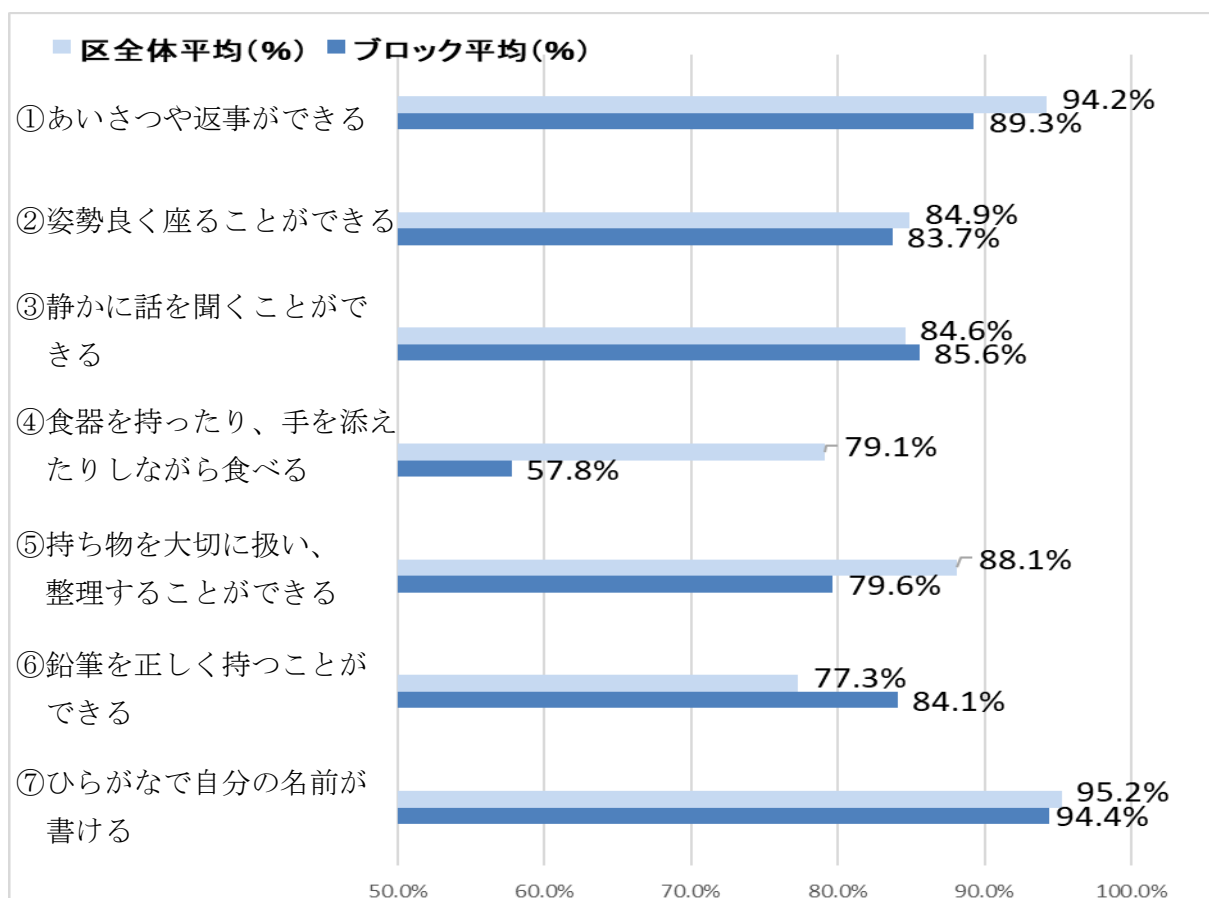
○ 幼稚園、保育園の公開保育

10月に幼稚園、12月に保育園の様子を小学校教諭、幼稚園教諭、保育者が見て協議をすることにより、違いや共通点を感じることができた。公開保育では、今年の課題である「集中して静かに話を聞くことができる」に対して、それぞれの園では、子どもたちが聞きやすい声の大きさ、速さを心掛けていた。また、必要に応じて個別に説明するなど、子どもの思いを聞き応答的に関わりながら理解につなげていた。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第13ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
<p>ア 各校で割合が高くでている課題にばらつきがある。</p> <p>今回、課題として『持ち物を大切に扱い、整理すること』『座る姿勢』が共通し、身に付いていない児童の割合が高かった。</p> <p>イ 持ち物については、自分のものと認識できず、落とし物を見ても気づかない。整理整頓できない児童も多く、持ち物を管理できないことから落とし物が多い。</p> <p>ウ 座る姿勢については、机に伏せる姿勢や椅子の上に足を乗せる姿勢が見られている。</p>
課題に関する子ども達の取り組み方針
<p>課題：『持ち物を大切に扱い、整理する』『正しい姿勢で座る』</p> <p>今年度の取り組みは、昨年度のテーマ『集中して静かに話をきくことができる』にも通ずる内容でもあり幼保小の交流にも活かしていく。</p> <p>自分の持ち物を所定の場所にしまう、正しい姿勢が意識できるように「座って話を聞く時の姿勢」「話し手の方に体を向けてきく」など、場面ごとに正しい姿勢を示していく。体幹の弱さが姿勢保持の低さにつながっているため、運動を多く取り入れるようしていく。</p>

Ⅱ 接続期教育研修

1 目的

就学前教育・保育施設と小学校の連携や、子どもたちの円滑な接続を図るために必要な知見を含め、園・校において必要な指導・支援の力を高める。

2 第1回研修の内容（オンデマンド配信）

(1) 講義1「子どもの発達や学びの連続性から幼保小接続を考える」

ア 講師

日本体育大学児童スポーツ教育学部 教授 齊藤 多江子氏

イ 内容

- ① 幼児教育と小学校以上の教育を貫く柱（資質・能力）と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について
- ② 「育ち、学びを支える力」と「学び・生活の力」との関係について
- ③ あだち幼保小接続期カリキュラム「10+4の姿」を指導（援助）する際に考慮すること及び評価の観点の捉え方について

(2) 講義2「小学校入学期におけるスタートカリキュラム（週案簿）」について

ア 講師

前足立区教育委員会 教育指導部教育指導課 指導主事 中村 健太郎

イ 内容

- ① 幼児教育から学校教育へ移行する際に予想されるギャップについて
- ② めざす児童の姿と課題解決のための指導のポイントについて
- ③ あだち幼保小接続期カリキュラム及びスタートカリキュラム（週案簿）の活用について

(3) 受講者評価

【小学校関係者全体の結果】

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	41.9%	35.1%
4	54.1%	59.5%
3	4.1%	5.4%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%

【幼児教育関係者全体の結果】

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	74.3%	77.1%
4	22.8%	20.0%
3	2.3%	1.8%
2	0.6%	1.2%
1	0.0%	0.0%

3 第2回研修の内容（オンデマンド配信）

(1) 講義「幼保小の架け橋プログラムの目的とその展開」

ア 講師

国学院大学名誉教授／大阪総合保育大学特任教授 神長 美津子氏

イ 内容

(ア) 幼保小の架け橋プログラムの背景

- ① 子どもたち一人一人が、未来の創り手となっていくために「生きる力」の理念を具体化する必要がある。
- ② 学校教育では、個別最適な学びと協働的な学びを重視しなければならない。
- ③ 幼児教育では円滑な接続、質の評価を通じP D C Aサイクルの構築等により質の高い教育を提供しなければならない。

(イ) 幼保小の架け橋プログラムの概要

- ① 幼保小連携の現状と課題及び幼保小架け橋プログラムのねらいについて
- ② モデル地域における開発、実践、検証について

(ウ) 架け橋期のカリキュラム作成の実際

- ① 「遊びや学びのプロセス」から「共通の視点」をもって架け橋期の指導を考える。(5歳児の活動の場合、1年生の生活科の場合)
- ② 遊びや学びのプロセスを支える指導上の留意点について
- ③ 架け橋期の「主体的・対話的で深い学び」の実現を支える教師・保育者の役割について

(2) 受講者評価

【小学校関係者全体の結果】

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	41.9%	35.1%
4	54.1%	59.5%
3	4.1%	5.4%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%

【幼児教育関係者全体の結果】

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	63.8%	64.3%
4	28.6%	28.1%
3	7.7%	7.7%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%



幼保小連携活動報告

令和5年9月発行

発行 足立区教育委員会

編集 足立区教育委員会 子ども家庭部 子ども施設運営課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話03-3880-5431